

提案書要約

1 事業名

身近なプラスチック家庭ごみ（ペットボトルや弁当容器、梱包材等）のアップサイクル商品開発及び体験ワークショップの開発事業

2 応募者名

株式会社RINNE

3 内容

(1) 目的・位置付け

- ・当社は東京都台東区にてアップサイクル推進事業（体験、教育、商品開発）を行う。
- ・誰もが、廃材を使ったモノづくりを体験することにより資源循環に対する関心を持ち、工夫すれば削減、再利用、大切に扱うという考えを持つことを推進している。
- ・日本発のアップサイクルなモノづくりを体験する飲食店舗を持ち、ここでは子どもから大人まで年齢関係なくアップサイクル体験できるワークショップを実施しており、現在種類は17以上ある。
- ・昨今のSDGs教育の高まりを受けて、教育機関からの要望があるプラスチックのリユース、リサイクルにおけるワークショップの検討を開始。
- ・身近なプラスチック家庭ごみ（ペットボトルや弁当容器、梱包材等）を再利用するワークショップ事業を実施したい。

(2) 実施内容

- ① 当社にて、プラスチック家庭ごみ（ペットボトルや弁当容器、梱包材等）を回収、素材研究・試作を行う。
- ② 当社にて、商品デザイン、ワークショップとして活用するためのサービスデザインの設計を行う。
例）モバイル、ガーランド、ブローチ、スマホホルダー、ストラップ、アクセサリ雑貨等を想定
- ③ クリエイターとの協業により、デザインやワークショップ体系のブラッシュアップを行い実施方針を決定する。
- ④ 実施方針決定後、台東区障害福祉課に相談し都内福祉施設（製作委託業者）に詳細報告。プラスチック家庭ごみ（ペットボトルや弁当容器等）回収、洗浄、部品加工を行う。
- ⑤ 当社にて制作進行管理、納品されたクオリティチェックを行う。
- ⑥ 完成後、当社店舗でのデモンストレーションの実施。（その後、通常サービスとして提供）
- ⑦ 台東区、墨田区等でのイベント出店時の装飾の一部、ワークショップの実施（想定）。
- ⑧ 都内教育機関（小学校等）、環境啓蒙施設でのワークショップの実施（想定）。

(3) 取り組み実績

- ・創業後、廃材を活用したモノづくりワークショップや商品化の実績多数あり、しかし今回ご提案のプラスチック家庭ごみ（ペットボトルや弁当容器、梱包材等）を再利用したワークショップの開発はなし。
- ・今後の想定として、都内福祉作業所との連携し継続的なワークショップの実施ほか、雑貨等の商品開発につなげていきたい。

(4) 本事業において期待される効果

- ・台東区障害福祉課のアドバイスを受け区内福祉施設共同開発することにより、循環に則した製品であることはもちろん、福祉支援の面でも就労の機会の提供をふまえた価値のある製品が創出される。
- ・身近なプラスチックゴミを活用した商品開発及びワークショップを実施することにより、使い捨てプラスチックの3R認識、ワンウェイプラスチックの課題点の認識という「きっかけ作り」を生活者に醸成する。
- ・自社店舗（アップサイクルなモノづくりを体験できる）にて本事業終了後も定着がみこまれる。

(5) 実施体制と各社役割

